



周防大島町長
権木 巧

防災対策の取り組みを強化します

明けましておめでとうございませす。

皆様におかれましては、健やかで、輝かしい辰年をお迎えされたことと、心からお慶びを申し上げます。

さて、私が二代目周防大島町長に就任し、早いもので三年が経過をいたしました。

その間、私は、常に財政の健全化を念頭に「合併してよかったと実感できるまちづくり」に向け、町民の皆様と手を携え、種々の取り組みを進めてまいりました。

おかげをもちまして、体験型修学旅行の誘致につきましては、昨年は二十校、三千百三十名の中学・高校・大学生が周防大島町を訪れてくれました。今年には既に二十二校、約四千二百名の予約を受けているところがあります。

加えて、道の駅サザンセットとうわへのチャレンジショップの開設、十月には、おいでませ！山口国体アーチェリー競技の開催など、賑わいの創出に一定の成果を挙げることができました。

また、住宅リフォーム資金助成事業の創設や、小中学校校舎等の耐震化率百パーセントへ向けての

事業促進、拠点避難所への防災備蓄倉庫の設置といった、住民生活に密着した事業、安全・安心への取り組みを進めてきたところでありませす。

更には、地上デジタル放送移行への対策として、町内全域に光ケーブルによるCATV網を整備することにより、難視地区の解消と地域情報基盤が整備されました。

今年は、県内で初の町による福祉事務所を開設し、今まで県が行っていた事務を町で行うこととされています。このことにより、住民サービスが大幅に向上いたしました。

健康診断の充実や、特定検診の受診率向上に努めると共に、町立東和病院の改築耐震工事にも着手をいたします。

このような施策を通じ、福祉・医療・健康・介護の連携をより強固にし、健康で明るい町づくりに努めてまいります。

また、昨年の東日本大震災の教訓を踏まえ、実効性のある自主防災組織の育成など防災対策への取り組みを今まで以上に強化いたします。

加えて、公共施設の耐震化などに鋭意取り組み、安全・安心なまちづくりを促進します。

平成二十四年度中には岩国錦帯橋空港が開港いたします。利便性の飛躍的向上により、私が推進する、賑わいの創出、交流人口百万人の構想に大きく寄与するものと期待をしております。

この機会を起爆剤に、産業振興、地域活性化、空き家対策などを総合的に推進するための定住促進事業に重点的に取り組みませす。

私の一期目の任期も余すところ一年を切り、仕上げの段階に入っております。今年の方針は、なんぞだ故事、「画竜点睛」のごとく、竜の面に仕上げの瞳を書き入れ、鮮やかな、生き生きとした、合併してよかったと実感できる、周防大島町を描きあげたいと考えています。

そして、皆様と共に、更なる飛躍を期するものであります。どうか温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。今年一年が皆様にとりまして、良き年でありますよう祈念いたします。新年のご挨拶といたします。